

## 経済教育ワークショップ in 神奈川三浦 記録

日時：2013年12月21日（土）14時00分から16：40分。

場所：三浦市総合体育館（潮風アリーナ）会議室

潮風アリーナは、京浜急行の終着駅（始発駅）の三浦口駅から坂道を10分ほど下ったところにある三浦市の体育館である。今回のワークショップはその会議室で行われた。



潮風アリーナの外観

参加者：19名

司会進行：落合隆先生（神奈川県立上鶴間高校）

内容概略

落合先生の挨拶の後、金子幹夫先生（神奈川県立平塚農業高校初声分校）による実践報告が行われた。

<金子幹夫先生実践報告「高校生は経済学の用語をどのように理解してゆくのか」>



報告する金子先生、机上の袋は教材の菓子

まず、お菓子の袋を生徒に配る。その上で、満足度を聞く。そのうち自然と小さなチョコを基準に交換が始まる。ここから授業になる。（先生方が実際にお菓子の交換をやりました。）

なぜこんなきっかけの授業をはじめたか？

授業では言葉を教える。

例1 株式会社。教師の理解と生徒の理解がほとんど違う。生徒は株を作っているところ、自分の会社の株を売っているなど書く。教師と生徒の認識のギャップがある。

例2 インフレ。インターフレンドシップなど全く適当。ところが、教科書ではきちんと書かれている。

そのギャップを埋めるには、どんな授業にしたらよいのかと考えた。

まず教科書の位置づけをする必要がある。教科書は世界を分かりやすくまとめた地図。地図に必要な情報は、目的地と現在地。教科書も同じ。何が書いてあり、生徒がなにを知っているかを押さえた上で学ぶ必要がある。

そのうえで、大きな認識の基盤を作ったうえで、そこを出発点として授業を毎時間展開することが必要と考えた。

では基盤とはなにか。分業、大量生産、交換の三つをベースにして授業を繰り返すことが大事と考えた。その背景には、スミス「国富論」を読み直してこれを教えなければとの思いがつのったことがある。

人間は交換したがる動物である。だから、経済の営みは交換が必要である。そのためには協力して生産性を高める必要がある。そこで、分業が大量生産にかかわる。

授業では、折り紙で自動車を作ることからはじめた。そのうえでお菓子の交換が登場する。

ここまでで分業と交換の理解を踏まえて更に展開する。

例3 消費者問題のときの板書。常に分業と交換に戻りそれが現在学んでいる内容と関連しているかを振り返る。

では、高校生は経済という言葉にどんなイメージを持っているか？知っているのだけれど組み立てられないのが実態ではないか（「現代社会」を二年で学んだ高校三年生のイメージマップを提示）

市場の概念をしっかりとつくるためには、こころをゆさぶる教材が必要になるのではと考え、市場に関する概念をゆさぶる教材を使った。

例4 「てぶくろを買いに」（新美南吉）これを生徒と読む。

そのうえで、企業についての学習をすすめる。

例5 ペットボトルのお茶の銘柄あてをする

そこから企業研究をする動機を作る。企業を研究してみようという授業を展開する。

例6 そのうえで「株式学習ゲーム」をやってみよう。

ここまでやると株式会社の正しい概念ができてくるのではと考える。

そのうえで、どうやって会社は資金を集めているのか？を考えさせる。

例7 ビデオを見る 質問項目は一つ 彼女が選んだのは直接金融か、間接金融か？

生徒はそのなかで概念をつかんでゆく。

例9 市場に関するまとめとして「レモンの絵本」を読む（パワーポイントで）。

以上の学習の最後に、市場に関するマップをもう一回書かせる。前と比較すると明らかに生徒の認識が深化していることがわかる。

まとめ

生徒の認識の特徴と授業の関わりは何か。まとめると以下のようになっていると考えられる。

1 経済の言葉は知っている。しかし、つながっていない。

- 2 でも出てこない（ごちゃごちゃの箱）
- 3 一度全部出させる（ひろげて）
- 4 体験学習で用語をしっかりと位置づけて（かためて）
- 5 授業でしっかりと書きさせる（再構築させる）

この一連の流れを紹介した。

なぜ、このような授業を思いついたか。ナラティブという概念をしったことである。例えば、野口祐二「協働するナナティヴアプローチの世界へ」医学書院のなかの指摘などが導きの糸となった。

それによれば、生徒は、毎時間書きしていると言える。

それを授業で吐き出させ もう一度書きさせる

教師は書き換えをする仕事ではないか。その責任の重さと面白さで今後も研究と実践を続けたい。

#### <加藤先生のコメント>

私は金子先生の話をおんなふう理解した。

- 1 経済用語に対する壁を取り除く
- 2 マップ作成による経済用語の理解度の把握
- 3 身近なところに経済があることを気付く
- 4 少なくともワードを知らなければ理解できない。それを経験から学ばせる

その姿勢や方法は経済学を教える立場からもうなずける。

例えば、お菓子の交換でいえば、交換で余剰が増大したということを示せることがここで行われている。また、需要曲線の本質をここで言っている。図（省略）で示せば、グラフを縦に読むことをここで実践している。これだと数学の関数と同じになり、教科同士がつながる。

チョコの需要曲線でいえば、チョコきらいなひともいるけれど、好きな人もいる。それが交換で欲しい人のところにゆく。そして全員の満足度が上がる。これは市場取引で余剰が増大したことであり、それをしっかりと実感させる体験である。

同じことが、企業のイメージを把握させる各種の体験学習にある。

経済用語の認知、認識（パーセプション）のギャップをいかに埋めるかが、株式会社、インフレなどの事例にある。

ちなみに、現在は、政策効果に関して政策のパーセプションを考えなければならなくなっている。例えば、交通安全政策。痛みを与えて防止する方法をとっているが、やまない人がいる。それは、パーセプションで人間は痛いとおもうがすぐ消える。また、ほとんど痛みを感じない人もいる。それらを踏まえて、政策が立てられなければならない。

本題にもどせば、教員は、難しいことを教えて満足してしまう。でも本当に必要なのは、生徒とのパーセプションギャップを認識したうえで、教えることより理解をさせることを

狙った学習を進めることだ。プラットフォームを体験学習で。あとは派生する概念として伝えるという金子先生の方式はそれに適合している。

金子先生の実践は素晴らしいが、今回の報告で不足のところ、理解できなかった箇所もいくつか残った。例えば、ルールがあつての自由な活動はもう少し強調しても良かったかもしれない。また、間接金融と直接金融に関しての部分は説明不足のようだ。

参考に、インフラビジネスの話をここでしておく。空港の例である。日銭が入るので投資したいという動きがある。年金基金がインフラに投資する。空港を株式会社にする。ファンドが投資。15%が配当する。預金に比べて有利な投資先だ。しかし、空港がつぶれるとゼロになる。こんなところに直接金融と間接金融の違いがある。

#### <金子先生の補足>

自信のないところでやっているのもので専門家の意見を聞きたかった。加藤先生のコメントは有難く思う。今後さらに展開してゆきたい。

#### 質疑

##### Q1 川崎商業 神野先生

どんなカリキュラムなのか、生徒の実際は？

他の学校でもやってきたのか レベルに合わせてやっているのか？

A 現在の学校は、全校生徒 90 人。単学級。教員も 7 人。社会科自分だけ。全部担当する。

これまでずっと苦しみながらやってきたものの蓄積。25 年目。多くは前任高のもの。似ているんだけど違うところもある。例えば、勉強がきらいは共通。最初の学校は、社会科きらいが多数。次は、嫌いだけれど、世の中のことを知りたいという希望がある生徒が出てくる。今の学校は、もっと世の中のことを知りたいという学校。生徒は同じようだがよく見ると違う。それを踏まえてやっている。

##### Q2 千葉工業 藤井先生

この実践はいつのもので、カリキュラムの全体はどうなっているか？

A 半期前のもの。経済だけやっているわけにはゆかないが時間はかけている。現在は法教育に取り組んでいる。

##### Q3 茅ヶ崎工定時制 三橋先生

授業のやり方が以前とは変わったようだが？

物々交換は面白いが、ここから貨幣がでてこないか？

A 前任の三浦臨海は単位制。だからコの字型で座らせてやった。分校はみんな知り合いだからコにしなかった。

チョコが通貨になる手前で止めただけだった。教えなかった。課題としたい。

##### Q4 千葉西 杉田先生

ハレとケでいえばハレの授業で面白い。でも評価はどうするのか。

テストの問題などを紹介してもらえないか。

A テストは先生と生徒の会話スタイル（授業でやったもの）で設問を作る。普段はファイルを持たせて、話をするとシールを付ける それを評価に加味する。

Q 5 川崎工業 木下先生

交換は、外為の授業にできないか？

等価交換モノではなく、価値の違うものにしたらどうか 一個あたりの差をつけたらよいのでは。

また、交換の祭、搾取と略奪が起きないか？私が同種のことをやった時は、一定のルールのもので交換が成り立たないことができた。

A 外為に関しては、そこまでの発想はなかったが今後の課題にしたい。搾取などのようなことは、今はそういうことはない。そうなったら、「国富論」ではなく、「道徳情操論」からさかのぼってゆきたい。

Q 6 横浜サイエンスフロンティア高 鈴木先生

分業と交換は有効だろうとおもう。

「手袋を買いに」の話でどうゆさぶるのか？

A お金をもっていれば差別なく交換ができるのではないかという程度の理解なんだけれどそれでよいかのかどうかは自信がない。うまいこといえない、本日のウイークポイントだと自分でも思っている。

Q 7 加藤先生

きつねの話がういてしまっていないか？ 内容をもう一度確認したい。

A 話の概略は次のようなもの（内容は略）。たしかにここから何を言いたいのか、もう一度確認してゆきたい。

Q 7 落合先生

なぜ分業と交換なのか？ 経済を通して何を教えるのか？もう一度確認したい。

労働をどこかで入れられないか？ 交換だけでなく労働の大事さ、価値をどう考えるか？

A 国富論を再読してうれしくなったことが一つ。これを教材にしたらどうなるかで一本の線がつながってきた思いがある。

労働に関しては、投入労働に比例して価値は決まらない部分があるのではと思っている。

Q 8 新井

ナラティブアプローチは面白いが、ベース部分も上書きされないか？

A 上書きされても、構築力が残ればよいのではないかと考えている。

このように、多くの質問や改善点の提案などが出てきた有意義な実践報告であった。

<加藤一誠先生の講演「経済学から考えるキャリア教育」>

講演内容は「幸せの人生を経済しよう」（日本経済研究センター）参照。講演は、この冊子に基づいて展開された。



コメントと講演する加藤先生

この冊子は三つの部分（進路編、就職・仕事編、結婚そして家庭編）に分かれている。まずは、進路編。進路指導の授業、特に大学進学を想定した授業で使える。初任給などは学歴別のものを提示する。これは、差別ではない現実である。進学のコストを考えさせる。その実例として、大学の授業料の時間コストを計算させる。1時間1万円であり、一分11円である。それを知ったうえで大学の授業に臨むことが充実した生活に通じる。とにかく、大学生は時間コストの感覚が薄い。それを実感させた。次は、就職・仕事編。進学後もしくは、就職生徒に使える。ただし、就職生が多い学校は生徒の実態に合わせて適宜解説を補足したりしてやる気を削がないようにしたい。最後は、結婚そして家庭編。ここでみんなは盛り上がる。結婚相手の条件の箇所など男女差がでて興味深い。次は、女性の機会損失。結婚は投資と同じ（女性の機会損失は2億2000万円）。奥さんができたら男は変わる、稼ぐようになる。でも、お金だけでなく、結婚はいいことあるよ。子どもの喜びは親の幸せなんだよというように、暗い話ではおわらないようにしたい。

## 質疑

Q 時間コストの話で、学割の定期はわかるが、通勤定期が安いのはなぜ？

A 産業の公共性から正当化されている。あえて、日本の国力のために経済学的には良いこととは言えないことだが、採用されている。JALの救済は公共性の立場で認められた。

Q ゾーンプライシング、差別運賃はできないのか？

A 公共性の原則からできないことになっている。有料道路は運賃ではなく料金だからかまわないとされている。コモンキャリアーのルールである。信頼性がなくなる。ちなみに、運賃でいえば、LCCのピーチが参入して運賃が差別化されたというのはいそ。スカイスター以外は子会社。だから日本では実質的三社で航空産業をやっている。

Q 進路編で大学進学のもとは取れるのか？

A 生涯賃金ではもとが取れる。だから、大卒の男性を選ぶ。

Q 結婚や家庭の話では、少子化や未婚についてそれを想定しているか？

A 少子化のことは頭に入れている。少子化は重要と思っている。その対策のためにも女性の機会費用を考えておく必要がある。

Q 人生と経済の関係をどう切り込むか？

A 経済で人生は測れないが、一つの基準として知っておくことが大事ではないか。また、この教材は、だれでもできる。ちょっとでもはさむ教材であればよい。気楽にやってもらえればよい。

Q 就職活動、年金など後編で作ってもらえないか？

A 今貯金の話の教材を考えている。今 100 万円を取るか、一年後の 105 万円を取るかなどを考えさせたい。

最後にネットワークから新井が挨拶をしてワークショップを終了した。年末の多忙な時期で、やや遠い会場だったが、報告、講演、質疑討論と充実した時間であった。金子先生の実践には、これを使ってみようという声上がるなど、現場の実践とエコノミストとのコラボを目指すネットワークのワークショップの趣旨が生かされた企画であったと言えよう。

記録分析 新井